

IBM



## Everyplace Client

*for Palm OS*

本書は、Everyplace® Client パージョン 5.0.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM

Everyplace Client  
for Palm OS

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

# 目次

## 第 1 章 始めに . . . . . 1

サポートされるコンポーネント . . . . .	1
前提条件 . . . . .	1
デスクトップ要件 . . . . .	1
デバイス要件 . . . . .	2
デバイス相互前提条件 . . . . .	2
サーバー要件 . . . . .	2
インストール・タスクの完了 . . . . .	3
Everyplace Client のインストール . . . . .	3
カスタム・インストールによる Everyplace Client のインストール . . . . .	4
インストールの検証 . . . . .	5

## 第 2 章 Everyplace Client を使用するデ バイス構成 . . . . . 7

Everyplace Client 用 VersaMail の構成 . . . . .	7
Everyplace Client 用 DateBk5 の構成 . . . . .	7
Everyplace Client ネットワーク設定の構成 . . . . .	8

## 第 3 章 Everyplace Client の使用 . . . . . 11

カテゴリーの使用 . . . . .	11
新規カテゴリーの作成 . . . . .	11
カテゴリーの編集 . . . . .	12
カテゴリーの削除 . . . . .	12
ショートカットの個別設定 . . . . .	13
ショートカットの追加 . . . . .	13
ショートカットの除去 . . . . .	13
アプリケーションの同期 . . . . .	13
カテゴリー・レベルの同期の実行 . . . . .	14
アプリケーション・レベルの同期の実行 . . . . .	14
スケジュール済み同期の構成 . . . . .	14
DB2 Everyplace の同期 . . . . .	15
データの置換 . . . . .	15
データ破壊に起因するデータ置換 . . . . .	15
ソフトウェア更新の確認 . . . . .	15
招待の使用 . . . . .	16
招待の添付ファイルの表示 . . . . .	16

招待に対する応答 . . . . .	16
Sametime Connect の使用 . . . . .	17
Sametime Connect の用語 . . . . .	18
Sametime Connect へのログイン . . . . .	19
他の Sametime Connect ユーザーへのメッセージ の送信 . . . . .	19
ユーザーまたはグループの管理 . . . . .	19
オンライン状況の変更 . . . . .	20
現在のオンライン状況メッセージの編集 . . . . .	21
テーマの選択 . . . . .	21
ネットワーク・プロファイルの使用 . . . . .	21
ネットワーク・プロファイルの作成 . . . . .	22
ネットワーク・プロファイルの編集 . . . . .	22
ネットワーク・プロファイルの削除 . . . . .	22

## 第 4 章 アンインストール . . . . . 23

デスクトップからの Everyplace Client のアンインス トール . . . . .	23
デバイスからの Everyplace Client のアンインストー ル . . . . .	23

## 付録 A. ヒント . . . . . 27

IBM Agent の言語の選択 . . . . .	27
招待サポートの更新 . . . . .	27
DMS インベントリー・ジョブの使用 . . . . .	27
デバイス上の SSL の使用可能化 . . . . .	27

## 付録 B. VersaMail の取得 . . . . . 29

## 付録 C. トラブルシューティング . . . . . 31

WebSphere Everyplace Services のエラー・メッセー ジ . . . . .	31
Mobility Client のエラー・メッセージ . . . . .	46

## 付録 D. 著作権および商標 . . . . . 49

著作権 . . . . .	49
商標 . . . . .	49



---

## 第 1 章 始めに

Everyplace® Client の使用を開始するにあたり、以下のトピックを参照してください。

- サポートされるコンポーネント
- 前提条件
- インストール・タスクの完了
- インストールの検証

---

### サポートされるコンポーネント

以下のリストには、Palm デバイスでサポートされるコンポーネントが表示されます。

**注:** Everyplace Client では、HotSync を使用して E メールと PIM データをクレードル上の Palm デバイスに同期することはできません。デバイスを適切に同期して最新データを受信できるようにするには、Everyplace Client を使用して E メールと PIM データを同期します。必要であれば、ソフトウェアのインストールとデバイス・データのバックアップを HotSync を使用して行うことができますが、HotSync では E メールと PIM データの同期がサポートされません。

- E メールおよび PIM
- データベース同期
- IBM® Agent
- Everyplace Client ユーザー・インターフェース
- Sametime® Connect
- Mobility Client for Palm OS

---

### 前提条件

Everyplace Client をインストールするには、特定のシステム要件とコンポーネント前提条件について、事前に理解しておく必要があります。以下のセクションを参照し、ご使用の環境が前提条件を満たしているかどうかを確認してください。

- デスクトップ要件
- デバイス要件
- デバイス相互前提条件
- サーバー要件

#### デスクトップ要件

- Palm デスクトップ
- 100 MB の一時スペース

## デバイス要件

- サポートされる Palm OS デバイス
- 8 MB のメモリー
- クレードル接続 (Everyplace Client インストール・プログラムを使用する場合)
- WebSphere® Everyplace Access 5.0 サーバーへのネットワーク接続 (Express Client Update アプリケーションを使用する場合)

## デバイス相互前提条件

- DateBk5 バージョン 5.1b。

注: Everyplace Client の zip ファイルには、DateBk5 のインストール・ファイルが含まれています。

注: Everyplace Client の前に DateBk5 をインストールする場合、次のようなメッセージを受け取ることがあります。

DateBk5 のライセンスは 45 日間のみ有効です。Everyplace Client のインストール・プロセスにより、DateBk5 ライセンスは有効になり、45 日間の試用期間は適用されません。

- VersaMail バージョン 2.5.1 (Tungsten C の場合)、VersaMail バージョン 2.5.2 (Tungsten W の場合)、および VersaMail バージョン 2.7 (Treo 600 の場合)。

注: VersaMail 2.7 の取得およびインストールが済んでいない場合は、『付録 B. VersaMail の取得』を参照してください。

- m-Router。

注: Everyplace Client の zip ファイルには、m-Router のインストール・ファイルが含まれています。

## サーバー要件

管理者がユーザー ID を設定した IBM WebSphere Everyplace Access 5.0 サーバーへのアクセス権。WebSphere Everyplace Access Server の設定の詳細については、WebSphere Everyplace Access のインフォメーション・センターを参照してください。

Everyplace Client とともに Sametime Connect を実行するには、以下のサーバーと拡張機能が必要です。

- Sametime Server 3.0 または Sametime Server 3.1

注: ご使用のサーバーで Lotus® Domino® 6 を稼働している場合は、Sametime Server 3.1 を使用する必要があります。

- Sametime Server Extensions for Mobile Access

---

## インストール・タスクの完了

Everyplace Client をインストールする前に、HotSync を使用してデバイスとデスクトップを同期させ、デバイスの Palm ユーザー・プロファイルを作成します。Everyplace Client のインストール時は、インストール・プログラムにより、デバイスの Palm ユーザー・プロファイル・ディレクトリーにファイルがインストールされます。

Everyplace Client をインストールする場合は『Everyplace Client のインストール』、Everyplace Client のカスタム・インストールを実行する場合は『カスタム・インストールによる Everyplace Client のインストール』を参照してください。

## Everyplace Client のインストール

Everyplace Client をデバイスにインストールするには、以下の手順を参照してください。

**注:** 通常に使用する場合は、このインストールをお勧めします。

1. Everyplace Client パッケージ (PalmOS\_501.zip) をデスクトップ上で unzip します。
2. Everyplace Client パッケージを unzip したディレクトリーにブラウズします。
3. setup.exe をダブルクリックし、インストールを開始します。
4. 通常、英語以外の言語をインストールする場合は、インストール時の言語を選択するように促されます。言語を選択したら「OK」をクリックします。
5. 「**Everyplace Client for Palm**」パネルで「次へ」をクリックします。

Everyplace Client のご使用条件が表示されます。

6. ご使用条件を確認し、ウィンドウを閉じます。
7. ご使用条件の内容に同意する場合は「はい」、同意しない場合は「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合は、インストールが終了します。
8. 使用しているデバイスをリストから選択し、「次へ」をクリックします。
9. Everyplace Client をインストールする Palm ユーザー・プロファイル名を選択します。リスト内のユーザーをすべて選択する場合は「すべてを選択」を選択します。「次へ」をクリックします。

**注:** Palm ユーザー・プロファイルが 1 つしかない場合は、このパネルは表示されません。

10. Everyplace Client をデフォルトの場所にインストールする場合は、「次へ」をクリックします。Everyplace Client のインストール・ディレクトリーを選択する場合は、「ブラウズ」をクリックしてディレクトリーを選択し、「次へ」をクリックします。
11. 「次へ」をクリックして、デスクトップへのファイルのコピーを開始します。
12. インストールが完了したら、「完了」を押します。
13. デバイスをソフト・リセットし、HotSync を使用して Everyplace Client をデバイスにインストールします。

## カスタム・インストールによる Everyplace Client のインストール

Everyplace Client のカスタム・インストールを完了するには、以下の手順を参照してください。

**注:** カスタム・インストールを実行するのは、ユーザーが高度な技術を持っている場合、または管理者/技術サポート担当者から指示された場合のみにしてください。

1. Everyplace Client パッケージ (PalmOS\_501.zip) をデスクトップ上で unzip します。
2. Everyplace Client パッケージを unzip したディレクトリーにブラウズします。
3. setup.exe をダブルクリックし、インストールを開始します。
4. 通常、英語以外の言語をインストールする場合は、インストール時の言語を選択するように促されます。言語を選択したら「OK」をクリックします。
5. 「**Everyplace Client for Palm**」パネルで「次へ」をクリックします。

Everyplace Client のご使用条件が表示されます。

6. ご使用条件を確認し、ウィンドウを閉じます。
7. ご使用条件の内容に同意する場合は「はい」、同意しない場合は「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合は、インストールが終了します。
8. 「**カスタム・インストール (Custom Installation)**」を選択し、「次へ」をクリックします。
9. インストールするコンポーネントの隣にあるチェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、すべてのコンポーネントが選択されています。次に、「次へ」をクリックします。

**注:** 各コンポーネントを選択すると、そのコンポーネントの説明が表示されます。説明を参照し、インストールするコンポーネントを決定してください。

10. Everyplace Client をインストールする Palm ユーザー・プロファイル名を選択します。リスト内のユーザーをすべて選択する場合は「**すべてを選択**」を選択します。「次へ」をクリックします。

**注:** Palm ユーザー・プロファイルが 1 つしかない場合は、このパネルは表示されません。

11. Everyplace Client をデフォルトの場所にインストールする場合は、「次へ」をクリックします。Everyplace Client のインストール・ディレクトリーを選択する場合は、「ブラウズ」をクリックしてディレクトリーを選択し、「次へ」をクリックします。
12. 「次へ」をクリックして、デスクトップへのファイルのコピーを開始します。
13. インストールが完了したら、「完了」を押します。
14. デバイスをソフト・リセットし、HotSync を使用して Everyplace Client をデバイスにインストールします。



## インストールの検証

以下に示すアイコンは、インストールされた機能を示します。インストールが正常に完了したかどうかを判断するには、以下に示すリストのアイコンとデバイスのアイコンを比較します。次にアイコンを押して、それぞれの機能を起動してみます。以下に示すアイコンがデバイス上にすべて存在し、起動することも可能である場合は、インストールが正常に完了しています。

以下のアイコンがすべて存在していない場合、または機能のいずれかを起動できない場合は、『カスタム・インストールによる Everyplace Client のインストール』の手順を繰り返し、各アイコンとともにリストされているアプリケーションをインストールします。

**注:** 以下のアイコンのいずれかを起動できない場合は、最初のインストールで正常にインストールされなかったアプリケーションのみをインストールする必要があります。

### Everyplace



- Invitation (ECInvHndlr.prc)
- IBM Migration (ECMigration.prc)

**注:** このファイルは IBMeau.prc を最初に実行したときに削除されます。

- Everyplace Sync (ECSyncML.prc)
- Everyplace Timer (IBMeatm.prc)
- Everyplace (IBMeau.prc)
- PBSPkcs11 (PBSPkcs11.prc)
- Everyplace SSL (SSLlib.prc)
- Everyplace Timezone (tztool.prc)
- VMDbLib (VmDbLib.prc)

### DB2eCLP、IBM Sync、および IBM Update



- DB2 Everyplace (config-isyn.pdb、DB2eCat.prc、DB2eCLI.prc、DB2eComp.prc、DB2eDMS.prc、および DB2eRunTime.prc)
- DB2eCryptoPlugin (CryptoPlugin.prc)
- DB2eCLP (DB2eCLP.prc)
- dsyagent (dsyagent.prc)
- imsaconfig (imsaconfig.prc)
- imsadb2e (imsadb2e.prc)
- imsafile (imsafile.prc)
- isynconf (isynconf.prc)
- isyncore (isyncore.prc)

- IBM Sync (isyncui.prc)
- isyncxpt (isyncxpt.prc)
- IBM Update (iUpgrade.prc)
- PBSPkcs11 (PBSPkcs11.prc)
- Everyplace SSL (SSLlib.prc)
- wbxmllib (wbxmllib.prc)

### IBM Agent



- IBM Agent (DMSAgentResources.pdb、PalmUpdate.prc、PvcPalm.prc)

### Mobility Client



- WECM AES 128 (EWGAES128.prc)
- WECM WLP (EWGAlp.prc)
- Mobility (EWGClient.prc、EWGDefaultAcct.pdb、および EWGDefaultAdpt.pdb)
- WECM Compress (EWGCompress.prc)
- WECM Data Mgr 1 (EWGDataMgr1.prc)
- WECM Data Mgr 2 (EWGDataMgr2.prc)
- WECM Dev LAN (EWGDeviceLan.prc)
- WECM Dialer (EWGDialer.prc)
- WECM Hdr Reduct (EWGHdrReduct.prc)
- WECM Net IF 4 (EWGnetIF4.prc)
- WECM Net IF 5 (EWGNetIF5.prc)
- WECM Sys Log (EWGSysLog.prc)
- WECM Toolkit (WEGToolkit.prc)
- Mobility (EWGUpdater.prc)
- WECM Utils (EWGUtils.prc)
- WECM WLP (EWGViewer.prc)

### Sametime Connect



- PBSPkcs11 (PBSPkcs.prc)
- Sametime (sametime.prc)

インストールが正常に完了したことを確認したら、『第 2 章 Everyplace Client を使用するデバイス構成』を参照し、Everyplace Client を使用するようにデバイスを構成します。

---

## 第 2 章 Everyplace Client を使用するデバイス構成

以下のトピックでは、Everyplace Client を Palm OS デバイス上で構成する手順について説明します。構成は、以下に示す順序で行ってください。

- Everyplace Client 用 VersaMail の構成
- Everyplace Client 用 DateBk5 の構成
- Everyplace Client ネットワーク設定の構成

---

### Everyplace Client 用 VersaMail の構成

Everyplace Client を構成する前に、VersaMail アカウントをセットアップします。その後、VersaMail を Everyplace Client とともに動作する構成とすることができるように、VersaMail アカウント名を記録するには、以下の手順を参照してください。

1. デバイスのホーム画面で VersaMail アイコンを押します。
2. VersaMail を初めて実行する場合は、最初の画面のアカウント名を記録します。このアカウント名は後で使用します。これが VersaMail の初めての実行ではない場合は、左上隅に表示されるアカウント名を記録します。
3. 追加構成は不要です。Home キーを押して、構成を終了してください。

---

### Everyplace Client 用 DateBk5 の構成

Everyplace Client とともに動作するように DateBk5 を構成するには、以下の手順を参照してください。

1. DateBk5 を構成する前に、デバイスのホーム画面で **dbSetup** アイコンを押します。
2. 「世界のタイムゾーン (World Timezones)」チェック・ボックスを選択し、「チェックした項目のインストール (Install Checked Items)」を押します。
3. デバイスのホーム画面で **DateBk5** アイコンを押します。
4. 最初に DateBk5 を実行すると、DateBk5 をデフォルトの予定表として設定するかどうか尋ねられます。「はい」を押します。
5. 上部のバーを押してメニューを表示し、タイムゾーン情報を構成します。
6. 「オプション」->「設定」を選択します。
7. 「ゾーン (Zone)」タブを選択します。
8. 構成するタイム・ゾーンを以下のオプションから選択します。

注:

- a. 「ホーム・ゾーン (Home Zone)」には実際のタイム・ゾーンを選択する必要があります。
- b. これらの設定についての詳細は、DateBk5 のドキュメンテーションを参照してください。

#### 現在のゾーン (Current Zone)

このタイム・ゾーンに指定される値は、現在デバイスが常駐するタイ

ム・ゾーンを示します。カレンダー表示に示されるイベントの時間は、この設定を基にしています。例えば、表示が「8:00」で、「現在のゾーン (Current Zone)」が「米東部標準時」に設定されている場合は、そのイベントが米東部標準時の 8:00 に行われることを意味します。タイム・ゾーン間で移動する際は、このゾーンを調整する必要があります。このタイム・ゾーンは、サーバー上にあるユーザーの同期プロファイルで指定したタイム・ゾーンと一致する必要があります。どちらかの一方をゾーンを変更したときは、常にもう一方のゾーンも変更する必要があります。「現在のゾーン (Current Zone)」と「ネットワーク設定」のタイム・ゾーンが一致していない場合は、一部のイベントの時間が一致しない可能性があります。

#### ゾーンの作成 (Create Zone)

このタイム・ゾーンに指定される値は、作成されるイベントが行われるゾーンを示します。

#### ホーム・ゾーン (Home Zone)

このタイム・ゾーンに指定される値は、デバイスが常駐するタイム・ゾーンを示します。Everyplace Client は、この値をデバイスのデフォルトのタイム・ゾーンとして使用します。

注: 別の場所へ永久的に移る場合以外、「ホーム・ゾーン (Home Zone)」のタイム・ゾーン値は変更しないでください。「ホーム・ゾーン (Home Zone)」のタイム・ゾーン値を変更する場合は、『データの置換』の手順を完了してデバイス上のデータを置き換え、デバイスを正しいホーム・ゾーンに初期設定する必要があります。

9. 「OK」を押します。

---

## Everyplace Client ネットワーク設定の構成

Everyplace Client をデバイスにインストールした後は、ネットワーク設定ウィザードを使用して、Everyplace Client プロファイルを構成します。詳細については、以下の手順を参照してください。

注: パネル内のフィールドについての詳細を参照するには、ネットワーク設定ウィザードの画面で (i) アイコンを押します。

1. プロファイルで使用する名前を「ネットワーク・プロファイル名」フィールドに指定し、右矢印を押して次のパネルに移動します。
2. 2 番目のパネルで、WebSphere Portal サーバーと同期するために使用する「ユーザー ID」と「パスワード」を指定します。デバイス ID は、Everyplace Client によって提供されます。右矢印を押して次のパネルに移動します。
3. 3 番目のパネルで以下の情報を入力し、右矢印を押して次のパネルに移動します。
  - このネットワーク・プロファイルで使用する Everyplace Access サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
  - SameTime Server、DB2 Server、および DMS Server のホスト名または IP アドレスが Everyplace Access サーバーと同じ場合は、「SameTime Server」、「DB2 Server」、および「DMS Server」の各チェック・ボックスを選択します。

- 管理者または技術サポート担当者から指示された場合は、「**拡張設定**」と「**トレース**」を構成します。
- 4. 4 番目のパネルで、「**VersaMail アカウント (VersaMail Account)**」の横のピック・リストをクリックし、使用する E メール・アドレスを選択します。右矢印を押して次のパネルに移動します。

**注:** 指定する VersaMail アカウントは、『Everyplace Client 用 VersaMail の構成』のステップ 2 で記録したアカウント名と同じにする必要があります。

- 5. 5 番目のパネルで、「**カレンダー・アプリケーション**」ピック・リストから使用するカレンダー・アプリケーションを選択します。右矢印を押して次のパネルに進みます。
- 6. 6 番目のパネルで以下の情報を入力し、右矢印を押して次のパネルに進みます。
  - a. 接続する Sametime サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
  - b. Everyplace Client により、ご使用の Everyplace Client のユーザー ID とパスワードが「ユーザー ID」フィールドと「パスワード」フィールドに設定されます。Sametime に対して別のユーザー ID とパスワードを使用する場合は、Sametime サーバーへの接続時に使用する値を示すように「ユーザー ID」フィールドと「パスワード」フィールドを変更します。
  - c. 管理者または技術サポート担当者から指示された場合は、「**拡張設定**」に情報を入力します。
- 7. 7 番目のパネルでアクセス先の DB2 Everyplace サーバーのホスト名または IP アドレスを指定し、右矢印を押して次のパネルに移動します。

**注:** 「**拡張設定**」のフィールドに入力するのは、管理者から指示された場合のみにしてください。

- 8. 8 番目のパネルでアクセス先の Device Manager サーバー (DMS) のホスト名または IP アドレスを指定し、右矢印を押して次のパネルに移動します。

**注:** 「**拡張設定**」のフィールドに入力するのは、管理者から指示された場合のみにしてください。

- 9. 9 番目のパネルで以下の情報を入力します。
  - a. WebSphere Everyplace Connection Manager への接続時に使用するネットワーク・プロファイルをピック・リストから選択します。
  - b. 接続先の WebSphere Everyplace Connection Manager サーバーの IP アドレスとポート番号を「**サーバー**」フィールドと「**ポート**」フィールドに指定します。

**注:** このステップは、「Everyplace」のプロファイルを使用する場合のみ必要です。

- c. Everyplace Client のネットワーク・プロファイルに指定したユーザー ID とパスワードの値が Mobility Client と同じ場合は、「**Everyplace のアカウントを使用**」チェック・ボックスを選択します。値が同じでない場合は、Mobility Client アカウントのユーザー ID とパスワードを「**ユーザー ID**」フィールドと「**パスワード**」フィールドに指定します。

**注:** このステップは、「Everyplace」のプロファイルを使用する場合のみ必要です。

10. 「OK」を押し、ネットワーク・プロファイルを作成します。
11. 「完了」を押します。

---

## 第 3 章 Everyplace Client の使用

Everyplace Client を使用するには、以下のトピックを参照してください。

- カテゴリーの使用
- ショートカットの個別設定
- アプリケーションの同期
- データの置換
- ソフトウェア更新の確認
- 招待の使用
- Sametime Connect の使用
- テーマの選択
- ネットワーク・プロファイルの使用

---

### カテゴリーの使用

カテゴリーとは、同時に同期化することができるアプリケーションのグループです。Everyplace Client ユーザー・インターフェース内の「**カテゴリー**」設定パネルを使用して、新規カテゴリーの作成、カテゴリーの編集、またはカテゴリーの削除を行うことができます。


カテゴリーの使用についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- 新規カテゴリーの作成
- カテゴリーの編集
- カテゴリーの削除

### 新規カテゴリーの作成

新しいカテゴリーを作成して、アプリケーションを編成することが可能です。


新規カテゴリーを作成するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「カテゴリー」を押します。
3. 新規カテゴリー・アイコン () を押します。
4. 新規カテゴリーの名前を「カテゴリー名」フィールドに入力します。
5. カテゴリーに含めるアプリケーションを選択します。
6. 変更内容を保管する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。
7. カテゴリー内のアプリケーションの順序を変更するには、上矢印または下矢印のアイコンを押します。
8. 「完了」を押します。

## カテゴリーの編集

カテゴリーを編集してその名前を変更したり、既存のカテゴリーに関連付けられているアプリケーションを変更することが可能です。

カテゴリー名を編集するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「カテゴリー」を押します。
3. 編集するカテゴリーを選択します。
4. 編集アイコン () を押します。
5. カテゴリーの名前を編集します。
6. 変更内容を保管する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。
7. 「完了」を押します。


カテゴリーの内容を編集するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「カテゴリー」を押します。
3. 編集するカテゴリーを選択します。
4. カテゴリーにアプリケーションを追加する場合は正符号 (+) アイコン、カテゴリーからアプリケーションを除去する場合は負符号 (-) アイコンを押します。
5. カテゴリー内のアプリケーションの順序を変更するには、上矢印または下矢印のアイコンを押します。
6. 「完了」を押します。

## カテゴリーの削除

カテゴリーを削除すると、新規カテゴリー用に場所を空けたり、カテゴリー・リストを再編成したりすることが可能です。

カテゴリーを削除するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「カテゴリー」を押します。
3. 削除するカテゴリーを選択します。
4. 削除アイコン () を押します。
5. カテゴリーの削除を確定する場合は「はい」、カテゴリーを維持する場合は「いいえ」を押します。
6. 「完了」を押します。



---

## ショートカットの個別設定

ショートカットを使用すると、Everyplace Client ユーザー・インターフェース内部からアプリケーションを起動することができます。そのアプリケーションのアイコンを 1 度押して起動します。ショートカット・バーが、画面の左下の部分にあります。ショートカット・バーには、全部で 7 個のアプリケーション・ショートカットを表示させることができます。

アプリケーション・ショートカットの使用についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ショートカットの追加
- ショートカットの除去

### ショートカットの追加

ショートカット・バーにアプリケーションを追加するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「ショートカット」を押します。
3. ショートカット・バーに追加するアプリケーションを選択します。
4. ショートカット・バーにアプリケーションを追加する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。

ショートカット・バーに新しいショートカットが表示されるのは、次回 Everyplace Client でメイン・ビュー・パネルを開いたときです。

### ショートカットの除去

ショートカット・バーからアプリケーションを除去するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「ショートカット」を押します。
3. ショートカット・バーから除去するアプリケーションを選択解除します。
4. ショートカット・バーからアプリケーションを除去する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。

---

## アプリケーションの同期

サーバーとの間で最新情報を送受信するには、アプリケーションを同期します。同期のタイプは 3 つあります。

- カテゴリー・レベルの同期 - カテゴリーに割り当てたアプリケーションをすべて同期できます。
- アプリケーション・レベルの同期 - アプリケーションを個々に同期できます。
- スケジュール済み - 指定した時間間隔で同期する一連のアプリケーションを選択できます。

デバイスを同期化するための情報については、以下のトピックを参照してください。

- カテゴリー・レベルの同期の実行
- アプリケーション・レベルの同期の実行
- スケジュール済み同期の構成
- DB2 Everyplace の同期

## カテゴリー・レベルの同期の実行

カテゴリー・レベルの同期を実行するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「カテゴリーの同期」を押します。

または


画面の右下隅の同期アイコン (  ) を押します。

## アプリケーション・レベルの同期の実行

アプリケーション・レベルの同期を実行するには、以下のステップを参照してください。

1. 同期するアプリケーションをメイン・ビュー・パネルで選択します。
2. 「メニュー」ボタンを押します。
3. 「同期」->「選択された同期 (Sync Selected)」を押します。

または

1. 同期するアプリケーションをメイン・ビュー・パネルで選択します。
2. 同期するアプリケーションの隣にある同期アイコン (  ) を押します。

## スケジュール済み同期の構成


スケジュール済み同期を構成すると、特定の時間間隔で同期する一連のアプリケーションを指定できます。スケジュール済み同期を構成するには、以下のステップを実行します。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「同期」->「同期設定」を押します。
3. 「同期方法」ピック・リストから「スケジュール済み」を選択します。
4. スケジュール済み同期を実行する日の隣にあるチェック・ボックスを選択します。
5. 同期の頻度と同期間隔を指定します。
6. スケジュール済み同期を開始および停止する時刻を指定します。
7. 同期を実行するたびに通知を受け取る場合は、「通知オプション」を押します。  
「同期通知」パネルで以下のオプションを選択し、「OK」を押します。
  - 「アラーム音」。同期開始時にアラームを鳴らす場合に選択します。
  - 「手動同期の結果を表示 (Show manual sync results)」。手動同期の結果を表示する場合に選択します。

- 「スケジュール済み同期の結果を表示 (Show scheduled sync results)」。  
スケジュール済み同期の結果を表示する場合に選択します。
- 8. 「アプリケーションの選択」を押し、スケジュール済み同期で同期するアプリケーションを選択します。
- 9. 「OK」を押し、スケジュール済み同期の設定を保管します。

## DB2 Everyplace の同期

DB2 Everyplace を同期させるには、以下のステップを実行します。

1. 「IBM Sync」 () を起動します。
2.  を押します。

---

## データの置換

選択したアプリケーションについてデータの置換を行うと、デバイス上の既存の Personal Information Management (PIM) データと E メール・データを、最新のサーバー・サイド・データで置き換えることができます。

注: 選択したアプリケーションについてデータを置換すると、現在デバイス上にある PIM データと E メール・データがすべて削除され、その代わりにサーバー・サイドのコピーが配置されます。デバイス上で変更を行い、それをサーバーに同期せずにデータを置換した場合は、変更内容が失われます。

データを置換するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「同期」->「データの置換」を押します。
3. データを置換するアプリケーションを選択します。
4. 「データの置換」を押し、選択したアプリケーションについて、デバイス上のデータをサーバー上のデータで置き換えます。
5. データの置換を確定する場合は「はい」、データを置換せずに終了する場合は「いいえ」を押します。

## データ破壊に起因するデータ置換

デバイス上のデータが破損した場合、またはサーバー上のデータとデバイス上のデータに不一致が検出された場合は、デバイス上のデータを置き換えるように WebSphere Everyplace Access サーバーから促されます。デバイス上のデータを置換する場合は「今すぐ同期」、デバイス上のデータを置換せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。

注: デバイス上のデータが破損した場合やデータの不一致が検出された場合は、管理者または技術サポート担当者に連絡し、詳細な情報を入手してください。

---

## ソフトウェア更新の確認

技術サポート・チームからソフトウェア更新を定期的に受信するには、ソフトウェア更新を定期的に確認します。

**注:** ソフトウェア更新を確認する際は、その前に Device Management Server (DMS) アドレスがネットワーク・プロファイルに指定されていることを確認してください。

ソフトウェア更新を確認するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「ソフトウェア更新」を押します。
3. 「更新を取得」を押します。

**注:** ソフトウェア更新の詳細については、技術サポート担当者にお問い合わせください。

---

## 招待の使用

Everyplace Client を使用すると、受信箱の E メール・メッセージを介して、招待、スケジュール変更通知、およびキャンセルの受信が可能となります。招待、スケジュール変更通知、およびキャンセルは、オーガナイザー、つまりメンバーをイベントへ招待する主催者によって、E メール添付ファイルとして送信されます。次のセクションでは、招待の添付ファイルを表示する方法、およびその添付ファイル・メッセージに応答する方法について説明します。以降のセクションでは、このような添付ファイルを招待の添付ファイルと呼びますが、添付ファイルが招待であるか、スケジュール変更通知であるか、キャンセルであるかは問いません。

**注:** オーガナイザーから受信する E メール・メッセージは、招待の添付ファイルと他の添付ファイルとが必ずしも区別されているとは限りません。したがって、添付ファイルが招待であるのか、スケジュール変更通知であるのか、キャンセルであるのかは、添付ファイルを開くまで判別できません。

- 招待の添付ファイルの表示
- 招待に対する応答

### 招待の添付ファイルの表示

招待の添付ファイルを表示するには、以下のステップを完了します。

1. 添付ファイルが含まれる E メールを開いたら、紙クリップ・アイコンを押して、招待の添付ファイルを開きます。
2. 「添付ファイル」ダイアログ・ボックスで、添付ファイルの名前を選択します。添付ファイルには、.eci という拡張子が付けられています。
3. 「表示」を押し、招待ビューアーを使用して添付ファイルを開き、『招待に対する応答』に説明されているオプションのいずれかを選択します。
4. 招待の添付ファイルを確認したら、「完了」を押します。

**注:** 添付ファイルを（デバイス上にローカルに保管するのではなく）メモリー・カードへ保管するには、「カードに保管 (Save To Card)」を押します。

### 招待に対する応答

開封した招待の添付ファイルが招待またはスケジュール変更通知であった場合は、以下のオプションのいずれかを選択します。

- イベントへの招待またはスケジュール変更通知に同意する場合は、「**同意する**」を押します。

Everyplace Client によって、招待の情報がデバイスのカレンダーに追加され、招待が添付された E メール・メッセージが受信箱から削除されます。さらに、Everyplace Client によって、招待に同意することを記した E メール・メッセージが送信箱に保管されます。次回メールを同期させると、サーバーによって E メール・メッセージがオーガナイザーに送信されます。

- 招待またはスケジュール変更通知に同意しない場合は、「**同意しない**」を押します。

Everyplace Client によって、招待が添付された E メール・メッセージが受信箱から削除され、招待に同意しないことを記した E メール・メッセージが送信箱に保管されます。招待がスケジュール変更通知の場合は、さらに、Everyplace Client によって、以前に同意したカレンダー・イベントの中から、このスケジュール変更通知に関連するあらゆるイベントが削除されます。次回メールを同期させると、サーバーによって E メール・メッセージがオーガナイザーに送信されます。

- 「**キャンセル**」を押して、招待の添付ファイルを閉じます。

Everyplace Client によって、招待の添付ファイルが閉じられます。ただし、この添付ファイルに関連するアクションは完了していません。招待は、招待の添付ファイルに応答するか、メッセージを削除するなど、E メール・メッセージに何らかのアクションで応答するまで受信箱に残ります。

**注:** 招待に同意するか、同意しないかを指定してから、E メールを同期してオーガナイザーに決定を通知します。その後、カレンダーを同期し、招待の情報によってカレンダーを更新します。

開封した招待の添付ファイルがキャンセルであった場合は、以下のオプションのいずれかを選択します。

- 「**イベントの除去**」を押して、カレンダーから招待を除去します。

Everyplace Client によって、デバイスのカレンダーからイベントが除去され、招待が添付された E メール・メッセージが受信箱から削除されます。

- 「**OK**」を押して、キャンセルを閉じます。

Everyplace Client によって、キャンセルが閉じられます。ただし、デバイスのカレンダーからイベントは削除されません。キャンセルは、招待の添付ファイルに応答するか、メッセージを削除するなど、E メール・メッセージに何らかのアクションで応答するまで受信箱に残ります。

---

## Sametime Connect の使用

Sametime Connect により、オンラインの友人および同僚のリストを保守できるため、相手を探し出してリアルタイムで安全に通信することが可能になります。

Sametime Connect を使用すると、個人用コンタクト・リストを作成できます。作成したリストには、公開アドレス帳で定義されたグループや、ユーザーが定義した個人グループを含めることができます。Sametime Connect にログインしている間は、

リストに登録されたメンバーがネットワークにログインすると、それが通知されるため、ログイン・メンバーにインスタント・メッセージを送信できます。

Sametime Connect についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- Sametime Connect の用語
- Sametime Connect へのログイン
- 他の Sametime Connect ユーザーへのメッセージの送信
- ユーザーまたはグループの管理
- オンライン状況の変更
- 現在のオンライン状況メッセージの編集

## Sametime Connect の用語

Sametime Connect についての詳細は、以下に示す Sametime Connect の用語リストを参照してください。

### メッセージ

2 人の Sametime Connect ユーザー間で交換されるテキスト・メッセージ。

### グループ

Sametime Connect を使用すると、単一グループ名を用いて連絡先のグループを編成できます。例えば、「**Work**」というグループを作成して、作業に関連するすべての連絡先を独自のワークグループにグループ化できます。基本的なグループは、以下の 2 つです。

- 公開—公開グループは、会社の公開アドレス帳で定義されたグループです。公開アドレス帳の所有者が、公開グループのメンバーシップを制御および定義します。
- 個人 — 個人グループは、個人が定義するユーザーのグループです。独自の個人グループにメンバーを追加したり、グループからメンバーを削除したりできます。

### オンライン状況

オンライン状況は、Sametime Connect サーバー上の Sametime Connect ユーザーのアクティブ状況を指します。Sametime Connect を使用する場合は、以下の状況オプションの中からいずれかを選択することも、独自のカスタム状況メッセージを作成することも可能です。

- オフライン—Sametime Connect ユーザーがログインしておらず、チャットが使用できない状況です。
- 応答可—Sametime Connect ユーザーがログインしており、チャットが使用可能な状況です。
- 離席中—Sametime Connect ユーザーはログインしていますが、現在コンピュータを使用していない状況です。

**注:** カスタムの離席中メッセージを作成して残しておくことができます。カスタムの離席中メッセージ作成についての詳細は、『現在のオンライン状況メッセージの編集』を参照してください。

- 応答不可—>Sametime Connect ユーザーはログインしていますが、応答できない状況です。



**注:** カスタムの離席中メッセージを作成して残しておくことができます。カスタムの離席中メッセージ作成についての詳細は、『現在のオンライン状況メッセージの編集』を参照してください。

Sametime Connect ユーザーからメッセージを送信してきたときに、自分のオンライン状況が「**離席中**」に設定されている場合は、Sametime Connect によってメッセージが自分の画面にが表示され、さらに、作成しておいたメッセージが自動応答として送信者に送られます。オンライン状況が「**応答不可**」に設定されている場合は、Sametime Connect によって、応答不可であることを通知する自動応答が送信者に送られます。

## Sametime Connect へのログイン

Sametime Connect を起動すると、ログイン・パネルが表示されます。

**注:** Sametime Connect クライアントに必要な設定がされていない場合は、設定パネルが開きます。

Sametime Connect へログインするには、以下のステップを参照してください。

1. ユーザー名とパスワードを入力します。
2. オプション—アプリケーションの起動時に、自動的に Sametime Connect へログインするには、「**自動ログオン**」を選択します。

**注:** このオプションはデバイスにパスワードを保存します。起動時に Sametime Connect のパスワード入力を求めるプロンプトが出なくなります。

3. オプション—Sametime Connect の接続設定を設定するには、「**接続設定**」を押します。接続設定を編集できるのは、Sametime Connect へログインしている間です。
4. 「**ログオン**」を押します。

## 他の Sametime Connect ユーザーへのメッセージの送信

他のユーザーへメッセージを送信するには、以下のステップを実行します。

1. グループ・リストで、メッセージ送信先の名前を押します。
2. 「**ツール**」→「**チャット**」を押します。

または、目的のユーザーを押し、そのユーザーにフォーカスを合わせたまま、コンテキスト・メニューを表示します。次に、コンテキスト・メニューから「**チャット**」を選択します。

3. テキスト域にメッセージを入力します。
4. 「**送信**」を押します。

## ユーザーまたはグループの管理

連絡先リストには、連絡を維持したい相手、およびメッセージを送受信したい相手のリストが含まれます。Sametime Connect ユーザーを連絡先リストに追加したり、リストから除去したりできますが、連絡先リスト内の各連絡先をグループに割り当てる必要があります。Sametime Connect ユーザーを連絡先リストに追加した場合は、グループを選択するか、追加したユーザー用の個人グループを作成する必要があります。会社の公開アドレス帳の公開グループを使用することもできます。

**注:** 公開グループの所有者が、公開アドレス帳のメンバーシップを定義します。公開グループのメンバーを追加または除去することはできません。  
Sametime Connect ユーザーは、連絡先リスト内の複数のグループに登録できます。例えば、「**Work**」グループのメンバーであるユーザーが、「**Friends**」グループのメンバーになることも可能です。

## Sametime Connect ユーザーの追加

Sametime Connect ユーザーを連絡先リストに追加するには、以下のステップを参照してください。

1. 「ツール」->「追加」を押して、「メンバーを追加」パネルを開きます。
2. 「ユーザー名」に、連絡先の完全な E メール・アドレスを入力します。
3. オプション—連絡先のニックネームを入力します。この名前は、連絡先リスト内のみで、ユーザー名に代わって表示されます。
4. 既存の個人グループ名を選択して、新規連絡先をグループに割り当てます。新規グループを作成するには、新しい個人グループの名前を入力します。
5. 「追加」を押します。

## Sametime Connect ユーザーの除去

Sametime Connect ユーザーを連絡先リストから除去するには、以下のステップを参照してください。

1. 連絡先リストで、削除するユーザーを押します。
2. 「ツール」->「除去」を押します。
3. 連絡先をリストから除去することを承認する場合は「**OK**」を、連絡先をリストから除去せずに終了する場合は「**キャンセル**」を押します。

## オンライン状況の変更

オンライン状況を変更して、連絡先リスト内の他の Sametime Connect ユーザーに、自分の状況が応答可、離席中、または応答不可であることを通知します。状況メッセージは、「**設定**」パネルで定義できます。

オンライン状況を変更するには、次のようにします。

1. Sametime Connect パネルの下部に表示されている現在のオンライン状況メッセージを押します。
2. 次のオプションの中から、オンライン状況を選択します。
  - 応答可
  - 離席中
  - 応答不可
  - オンライン状況メッセージを編集

**注:** オンライン状況メッセージの編集により、カスタムのオンライン状況メッセージを作成および表示できます。

Sametime Connect ユーザーからメッセージを送信してきたときに、自分のオンライン状況が「**離席中**」に設定されている場合は、Sametime Connect によってメッセージが自分の画面にが表示され、さらに、作成しておいたメッセージが自動応答とし



て送信者に送られます。オンライン状況が「応答不可」に設定されている場合は、Sametime Connect によって、応答不可であることを通知する自動応答が送信者に送られます。

## 現在のオンライン状況メッセージの編集

オンライン状況メッセージを編集するには、以下のステップを参照してください。

**注:** 「設定の変更」 パネル内でオンライン状況メッセージを定義することもできます。「設定」パネルを開くには、「オプション」→「設定」を押します。

1. 右上に表示されている状況セクターを押します。
2. 「オプション」→「オンライン・メッセージの接続状況メッセージの編集 (Edit Online Message Status Message)」を選択します。
3. ドロップダウン・メニューから表示するメッセージを選択するか、新しいメッセージを入力します。
4. 「OK」を押します。

---

## テーマの選択

Everyplace Client テーマでは、選択したテーマに基づいて、Everyplace Client の外観を個別設定できます。

**注:** Everyplace Client のデフォルト・テーマは **WebSphere** と呼ばれます。テーマ・アイコンの外観は、WebSphere のデフォルト・テーマ・アイコンと異なる場合があります。

Everyplace Client のテーマを変更するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」→「テーマ」を押します。
3. 使用するテーマをピック・リストから選択します。
4. テーマ・イメージを背景に表示する場合は、「背景イメージを表示」を選択します。
5. 各領域を長方形で囲む場合は、「長方形フレームを描画」を選択します。
6. 選択したテーマを保管する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。

---

## ネットワーク・プロファイルの使用

ネットワーク・プロファイルでは、同期時に接続するサーバー・アドレスを指定できます。ユーザーは、Everyplace Client を構成したときに、『Everyplace Client ネットワーク設定の構成』の説明に従って、ネットワーク・プロファイルを作成しています。ただし、作成したプロファイルは、構成中に編集することもできますし、必要がなくなれば削除することもできます。


ネットワーク・プロファイルの使用についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ネットワーク・プロファイルの作成

- ネットワーク・プロファイルの編集
- ネットワーク・プロファイルの削除


## ネットワーク・プロファイルの作成

新規ネットワーク・プロファイルを作成するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「ネットワーク設定」を押します。
3. 新規アイコン () を押します。
4. 右矢印および左矢印のアイコンを使用してパネル間を移動し、そのパネルを必要に応じて編集します。これらのパネルについての詳細は『Everyplace Client ネットワーク設定の構成』の説明を参照するか、または (i) アイコンを押して各パネルについてのオンライン・ヘルプにアクセスします。
5. 変更内容を保管する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。


## ネットワーク・プロファイルの編集

ネットワーク・プロファイルを編集すれば、プロファイル作成時に指定した設定を変更することが可能です。既存のネットワーク・プロファイルを編集するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「ネットワーク設定」を押します。
3. 編集するネットワーク・プロファイルをピック・リストから選択します。
4. 編集アイコン () を押します。
5. 右矢印および左矢印のアイコンを使用してパネル間を移動し、そのパネルを必要に応じて編集します。これらのパネルについての詳細は『Everyplace Client ネットワーク設定の構成』の説明を参照するか、または (i) アイコンを押して各パネルについてのオンライン・ヘルプにアクセスします。
6. 変更内容を保管する場合は「OK」、変更内容を保管せずに終了する場合は「キャンセル」を押します。

## ネットワーク・プロファイルの削除

古いネットワーク・プロファイルを Everyplace Client から除去するには、プロファイルを削除します。既存のネットワーク・プロファイルを削除するには、以下のステップを参照してください。

1. 「メニュー」ボタンを押します。
2. 「オプション」->「ネットワーク設定」を押します。
3. 削除するネットワーク・プロファイルをピック・リストから選択します。
4. 削除アイコン () を押します。
5. プロファイルの削除を確定する場合は「はい」、プロファイルを維持する場合は「いいえ」を押します。

---

## 第 4 章 アンインストール

Everyplace Client をアンインストールするには、以下のトピックを参照してください。

- デスクトップからの Everyplace Client のアンインストール
- デバイスからの Everyplace Client のアンインストール

---

### デスクトップからの Everyplace Client のアンインストール

Everyplace Client をデスクトップからアンインストールするには、以下のステップをすべて実行します。

1. 「スタート」->「設定」->「コントロール パネル」を選択します。
2. 「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
3. 「**Everyplace Client for Palm**」を選択します。
4. 「削除」を選択します。
5. 表示される指示に従います。

---

### デバイスからの Everyplace Client のアンインストール

Everyplace Client をデバイスからアンインストールするには、以下のステップをすべて実行します。

1. 「同期」->「終了」を押します。
2. 「拡張なし」のリセットを実行して、Everyplace Client がロードされないようにします。「拡張なし」のリセットを実行するには、デバイスをソフト・リセットするときに上矢印キーを押したままにします。
3. 「メニュー」ボタンを押します。
4. 「**App**」->「削除」を押します。
5. 以下のリストを参照して、デバイスからアンインストールする機能に基づき削除する項目を決定します。

#### **PIM および E メール**

デバイスからこの機能を除去するには、以下の削除するアプリケーションのリスト、それらの Palm Resource ファイルの名前、および各ファイルのサイズを参照します。

- Invitation (ECInvHndlr.prc)
- IBM Migration (ECMigration.prc)

**注:** このファイルは IBMeau.prc を最初に実行したときに削除されます。

- Everyplace Sync (ECSyncML.prc)
- Everyplace Timer (IBMeatm.prc)
- Everyplace (IBMeau.prc)

- PBSPkcs11 (PBSPkcs11.prc)
- Everyplace SSL (SSLlib.prc)
- Everyplace Timezone (tztool.prc)
- VMDbLib (VmDbLib.prc)
- syncMLVmailDB (syncMLVmailDB.prc)

### **Sametime**

デバイスからこの機能を除去するには、以下の削除するアプリケーションのリスト、それらの Palm Resource ファイルの名前、および各ファイルのサイズを参照します。

- PBSPkcs11 (PBSPkcs.prc)
- Sametime (sametime.prc)

**DB2e** デバイスからこの機能を除去するには、以下の削除するアプリケーションのリスト、それらの Palm Resource ファイルの名前、および各ファイルのサイズを参照します。

- DB2 Everyplace (config-isyn.pdb、DB2eCat.prc、DB2eCLI.prc、DB2eComp.prc、DB2eDMS.prc、および DB2eRunTime.prc)
- DB2eCryptoPlugin (CryptoPlugin.prc)
- DB2eCLP (DB2eCLP.prc)
- dsyagent (dsyagent.prc)
- imsaconfig (imsaconfig.prc)
- imsadb2e (imsadb2e.prc)
- imsafile (imsafile.prc)
- isyncconf (isyncconf.prc)
- isyncore (isyncore.prc)
- IBM Sync (isyncui.prc)
- isyncxpt (isyncxpt.prc)
- IBM Update (iUpgrade.prc)
- PBSPkcs11 (PBSPkcs11.prc)
- Everyplace SSL (SSLlib.prc)
- wbxmllib (wbxmllib.prc)

### **DM エージェント**

デバイスからこの機能を除去するには、以下の削除するアプリケーションのリスト、それらの Palm Resource ファイルの名前、および各ファイルのサイズを参照します。

- IBM Agent (DMSAgentResources.pdb、PalmUpdate.prc、PvcPalm.prc)

### **Mobility Client**

デバイスからこの機能を除去するには、以下の削除するアプリケーションのリスト、それらの Palm Resource ファイルの名前、および各ファイルのサイズを参照します。

- WECM AES 128 (EWGAES128.prc)
- WECM WLP (EWGAlp.prc)

- Mobility (EWGClient.prc、EWGDefaultAcct.pdb、および EWGDefaultAdpt.pdb)
  - WECM Compress (EWGCompress.prc)
  - WECM Data Mgr 1 (EWGDataMgr1.prc)
  - WECM Data Mgr 2 (EWGDataMgr2.prc)
  - WECM Dev LAN (EWGDeviceLan.prc)
  - WECM Dialer (EWGDialer.prc)
  - WECM Hdr Reduct (EWGHdrReduct.prc)
  - WECM Net IF 4 (EWGnetIF4.prc)
  - WECM Net IF 5 (EWGNetIF5.prc)
  - WECM Sys Log (EWGSysLog.prc)
  - WECM Toolkit (WEGToolkit.prc)
  - Mobility (EWGUpdater.prc)
  - WECM Utils (EWGUtils.prc)
  - WECM WLP (EWGViewer.prc)
6. 「メニュー」ボタンを押します。
  7. 「削除」を押します。



---

## 付録 A. ヒント

以下に示すヒントは、IBM Everyplace Client の使用時に役立つ場合があります。

---

### IBM Agent の言語の選択

IBM Agent は、インストール時に選択した国および地域に基づいて、インストールする製品の言語を判別します。したがって、IBM Agent をインストールする際は、デバイスで使用する言語が話される国および地域を選択してください。例えば、ユーザーがカナダ人であってもフランス語を話す場合は、IBM Agent のインストール時に「フランス」を選択します。

---

### 招待サポートの更新

デバイス上で招待サポートを更新し、それを PalmOS Exchange Manager に登録するには、以下のステップを実行します。

1. 現在の招待サポートがデバイスにロードされないようにするために、拡張機能をロードしないリセットを実行し、デバイスの既存の招待サポートの登録を抹消します。
2. 招待アプリケーションを削除して、最新版の招待サポートをインストールできるようにします。
3. デバイスを再度ソフト・リセットし、IBM Software Update の実行に必要な拡張機能をロードします。
4. Software Update を実行し、新しい招待サポートを取得します。
5. 招待サポートをデバイスにダウンロードしたら、デバイスを手動でソフト・リセットし、招待サポートを Exchange Manager に再登録します。招待サポートは、Exchange Manager に登録するまでは有効になりません。

---

### DMS インベントリー・ジョブの使用

DMS (Device Manager サーバー) インベントリー・ジョブに対して Mobility Client と Secure Sockets Layer (SSL) を使用する場合、Connection Manager サーバーとデバイス上で Transmission Control Protocol (TCP) の最適化を使用可能にすると、ジョブが失敗することがあります。DMS インベントリー・ジョブを正常に完了するには、Connection Manager サーバーおよびデバイス上で TCP の最適化を無効にし、再度ジョブの完了を試みます。

---

### デバイス上の SSL の使用可能化

IBM Agent を使用するとき、Everyplace Client ユーザー・インターフェースを使用して IBM Agent を構成したくない場合は、以下のヒントを参照して、IBM Agent を構成してください。

デフォルトでは、WebSphere Everyplace Access インストーラーにより、Secure Sockets Layer (SSL) ファイルの sslon.pdb と ssloff.pdb がコンピューターにインス

トールされ、 `ssloff.pdb` がデバイスにインストールされます。デバイス上のデバイス・エージェントで SSL 接続を使用可能にするには、 `HotSync` を使用して `sslon.pdb` をデバイスにインストールします。



---

## 付録 B. VersaMail の取得

IBM は、palmOne と palmOne に関する取り決めを結び、以下の条件下において、VersaMail 2.7 のコピーを WebSphere Everyplace Access のライセンス所有者に無償で提供しています。

1. これら VersaMail 2.7 のコピーは、WebSphere Everyplace Access ライセンス所有者専用を目的とし、palmOne Treo 600 Smartphones での使用のみを意図しています。
2. palmOne では Treo 600 Smartphones で VersaMail 2.7 をサポートする予定はありません。VersaMail 2.7 のサポートについて、palmOne へ直接問い合わせることはしないでください。

VersaMail 2.7 を取得するには、以下の説明を参照してください。

1. palmOne セキュア Web サイト (<http://ps.palmone.com>) へ移動します。
2. ユーザー名として `ibm@palmone.com` を、パスワードとして `Ver$aTreo` を指定します。(「パスワード (password)」フィールドでは大/小文字が区別されます。)
3. 画面右側のプルダウン・メニューから「IBM VersaMail」を選択します。
4. 「プロジェクトの選択 (Select Project)」をクリックします。
5. 「VersaMail クライアント (VersaMail Client)」をクリックします。
6. 「VersaMail 2.7 アーカイブ (VersaMail 2.7 Archive)」をクリックして、ダウンロードを開始します。

また、palmOne は、今後、VersaMail 2.7 を VersaMail の後続バージョンで置き換えるとともに、既に VersaMail 2.7 を取得している WebSphere Everyplace Access ライセンス所有者が、これからリリースされる新しいバージョンを前述の palmOne セキュア Web サイトから取得できるようにする予定です。VersaMail の後続バージョンのライセンスは、palmOne から無償で提供される予定です。VersaMail 後続バージョンのリリース時には、コピーの取得方法を <http://ps.palmone.com> で入手できます。

IBM は、palmOne との取り決めを通じて、前述した palmOne セキュア Web サイトから入手できる VersaMail 2.7 のサポートを WebSphere Everyplace Access ライセンス所有者に提供していく予定ですが、サポートの提供は、次のいずれか早い時点までとなります。(a) VersaMail 2.7 の後続製品がリリースされるまで、(b) ライセンス付与された WebSphere Everyplace Access のサポートが満了となるまで、(c) 2004 年 12 月 31 日まで。このサポートは、標準の WebSphere Everyplace Access サポート・チャネルから取得できます。VersaMail 後続バージョンのリリース後は、VersaMail 2.7 のサポートは中止されます。以降のリリースのサポートは、palmOne から直接取得してください。



---

## 付録 C. トラブルシューティング

以下のセクションでは、エラー・メッセージとその原因、および推奨されるユーザー処置を記載します。

- WebSphere Everyplace Services のエラー・メッセージ
- Mobility Client のエラー・メッセージ

---

### WebSphere Everyplace Services のエラー・メッセージ

WebSphere Everyplace Services のエラー・メッセージは、rcp ソース・ファイルに格納されています。これらのメッセージは、一般的なエスケープ文字シーケンスを使用してフォーマット設定されています。メッセージによっては、可変パラメーターとして C/C++ 形式の指示が含まれるものや、PalmOS パラメーターが含まれるものもあります。数値エラー・コードが括弧付きで示されているメッセージは、エラーまたは警告です。

以下に示す WebSphere Everyplace Services のメッセージ、原因、およびユーザー処置 (ある場合) を参照してください。

#### 終了しますか?

**原因:** 「同期」->「終了」を押すと表示されます。

**ユーザー処置:** 表示された質問パネルで「はい」または「いいえ」を押します。「はい」を押すと、Palm アプリケーション・ランチャーが **Home** キーにリストアされ、タイマーが終了します。プログラムは Palm アプリケーション・ランチャーに戻ります。

#### 変更を破棄しますか?

**原因:** 「ネットワーク」設定パネルでデータを入力し、次のパネルに移動して「キャンセル」を押すと表示されます。

**ユーザー処置:** データを入力したパネルが複数あるときに (つまり、現在のパネルに表示されていない変更内容があるときに) 「キャンセル」を押すと、それらの内容が破棄されるので、事前に確認を求められます。表示された質問パネルで「はい」または「いいえ」を押します。

#### 選択済みアプリケーションのデータを今すぐ置換しますか?

**原因:** 「データの置換」を押すと表示されます。

**ユーザー処置:** このアクションを実行するとデータが消失する恐れがあるので、アクションをキャンセルする機会がユーザーに提供されます。表示された質問パネルで「はい」または「いいえ」を押します。

#### データを置換しますか?

**原因:** 現在は使用されていません。

**ユーザー処置:** なし。

#### データを置換しますか (最近追加または変更されたデータは保持されます)?

**原因:** 現在は使用されていません。

**ユーザー処置:** なし。

**Everyplace** を使用するには、デフォルトのネットワーク・プロファイルをセットアップする必要があります。**\n\n**必要な情報は、このウィザードが収集します。

**原因:** このメッセージが表示されるのは、プログラムを始動したが、アクティブなネットワーク・プロファイルにユーザー ID、パスワード、および Everyplace サーバーが構成されていない場合です。

**ユーザー処置:** 表示された情報パネルで「**OK**」を押します。

パスワードが変更されました。

**原因:** 現在は使用されていません。

**ユーザー処置:** なし。

データの不一致により、デバイス側の一部のデータはサーバー上のコピーで置換されます。最近追加または変更されたデータは失われる可能性があります。この同期には、使用可能な最速の接続を使用することを推奨します。

**原因:** 現在は使用されていません。

**ユーザー処置:** なし。

#### [メッセージ・ストリング] (EAE000)

**原因:** このストリングは、別のリソース・ストリングをロードする代わりに、ハードコーディングしたデフォルトとして使用されます。デバイスのメモリー制約が非常に厳しい場合は、目的のストリングの代わりに、このメッセージが表示される場合があります。目的のストリングがビルドから省略されている場合も、このメッセージが表示されます。

**ユーザー処置:** デバイスに 64 K 以上のフリー・スペースがあることを確認してください。フリー・スペースが十分にある場合は、ビルド・エラーが考えられます。その場合は、WebSphere Everyplace Services の管理者に連絡してください。

#### メモリー割り振りエラーです。(EAE001)

**原因:** バッファを割り振る空きメモリーが十分でないときに、ユーザー・インターフェースを操作すると表示されます。これは、サーバー・エラーと考えられます。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「**OK**」を押し、現在の操作をキャンセルします。アプリケーションとデータを削除して使用可能なフリー・スペースを増やし、操作を再開してください。

#### このアプリケーションを実行するには、バージョン 4.0 以上のシステムが必要です。(EAE002)

**原因:** バージョン 4.0 より前の Palm オペレーティング・システムで表示されます。ユーザー・インターフェースを始動すると、Palm オペレーティング・システムのバージョンが確認されます。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「**OK**」を押し、ユーザー・インターフェースの操作をキャンセルして、PalmOS ランチャーに戻ります。

#### 7 つ以上のショートカット・アプリケーションを選択することはできません。(EAE003)

**原因:** 「ショートカット」設定パネルからアプリケーションを 7 つ以上選択すると表示されます。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押します。「ショートカットの選択 (Shortcut selection)」パネルに戻るので、選択済みアプリケーションの一部からチェック・ボックスを除去します。一度にサポートされるアプリケーションは 6 つ以下です。

**少なくとも 1 つのアプリケーションを選択する必要があります。(EAE004)**

**原因:** 以下の状況で表示されます。

- 「カテゴリー」設定パネルで、追加するアプリケーションを選択せずに + アイコン (追加記号) を選択し、「OK」を押したとき (現在の実装では、このメッセージは表示されません)。
- 「同期モード」設定パネルで、スケジュール済み同期を行うアプリケーションをさらに選択するように要求されたのに、アプリケーションが選択されていないとき。
- 「データの置換」パネルでアプリケーションを選択するように要求されたのに、一つも選択せずに「データの置換」を押したとき。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。1 つ以上のアプリケーションを選択してから続行するか、「キャンセル」を押します。

**開始時刻は終了時刻よりも前でなければなりません。(EAE005)**

**原因:** 「スケジュール済み同期」設定パネルで終了時刻を選択したが、それが開始時刻よりも前にある場合に表示されます。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。選択する開始時刻は、終了時刻よりも前になければなりません。

**スケジュール済み同期の場合、少なくとも 1 つの日にちを選択するする必要があります、再試行間隔は 10 分から 24 時間の範囲内でなければなりません。(EAE006)**

**原因:** 「スケジュール済み同期」設定パネルで「日」チェック・ボックスが選択されていません。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、「スケジュール済み同期」パネルに戻ります。「同期」設定パネルで、1 つ以上の日にちを選択してから「アプリケーションの選択」を押すか、「キャンセル」を押します。

**カテゴリー名が欠落しています。(EAE007)**

**原因:** 以下の状況で表示されます。

- 「カテゴリーの追加」パネルの「カテゴリー名」フィールドにテキストが入力されていないとき。
- 「カテゴリーの名前変更 (Category Rename)」パネルの「カテゴリー名」フィールドにテキストが入力されていないとき。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで「カテゴリー名」フィールドにテキストを入力するか、「キャンセル」を押します。

**少なくとも 1 つのカテゴリーを定義する必要があります。(EAE008)**

**原因:** 「カテゴリー」設定パネルでカテゴリーがすべて削除され、「完了」が押されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで新しいカテゴリを作成する必要があります。

少なくとも 1 つのネットワーク・プロファイルを定義する必要があります。

**(EAE009)**

**原因:** 「ネットワーク」設定パネルでプロファイルがすべて削除され、「完了」が押されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで新しいネットワーク・プロファイルを作成する必要があります。

フィールド内に無効文字が含まれています。コンマ、ハッシュ記号、および制御文字は許可されません。 **(EAE010)**

**原因:** 無効な文字が入力されていないかを確認するために、「カテゴリ名」、「プロファイル名」、「ユーザー ID」、「Everyplace サーバー」、「ソフトウェア更新サーバー (Software Updates server)」、「Sametime サーバー」、「Mobility サーバー」、「DB2 Server」、「パスワード」などのすべてのテキスト・フィールドが検証されます。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで無効なデータを訂正するか、「キャンセル」を押します。構成するデータにはコンマを含めることはできません。なぜなら、コンマはデータを内部で管理する際に使用されるからです。改行文字やその他の制御文字を使用すると、データ保全性や表示上の問題が発生する場合があります。

プロファイル名が欠落しています。 **(EAE011)**

**原因:** 「ネットワーク」設定パネルでプロファイルを作成または名前変更するときに、プロファイル名のデータが入力されませんでした。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルでプロファイル名を入力するか、「キャンセル」を押します。

必須データが欠落しています。指定されていないテキスト・フィールドに情報を入力してください。 **(EAE012)**

**原因:** ユーザー ID、サーバー、またはパスワードを入力せずに、「セキュリティー」設定パネルを続行しようとした。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで欠落しているデータを入力するか、「キャンセル」を押します。

このカテゴリ名はすでに存在します。固有の名前を入力してください。 **(EAE013)**

**原因:** カテゴリを作成または名前変更するときに、別のカテゴリですでに使用されている名前が選択されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで固有のカテゴリ名を入力するか、「キャンセル」を押します。

このネットワーク・プロファイル名はすでに存在します。固有の名前を入力してください。(EAE014)

**原因:** ネットワーク・プロファイルを作成または名前変更するときに、別のプロファイルですでに使用されている名前が選択されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで固有のプロファイル名を入力するか、「キャンセル」を押します。

**最大 16 個のカテゴリーを定義することができます。(EAE015)**

**原因:** 16 個のカテゴリーがすでに定義されているのに、「カテゴリー」設定パネルで**新規**アイコンが押されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで、新しいカテゴリーを作成するためにカテゴリーを削除するか、既存のカテゴリーの名前を変更するか、「完了」を押します。

**最大 16 個のネットワーク・プロファイルを定義することができます。(EAE016)**

**原因:** 16 個のネットワーク・プロファイルがすでに定義されているのに、「ネットワーク」設定パネルで**新規**アイコンが押されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで、新しいプロファイルを作成するためにプロファイルを削除するか、既存のプロファイルを編集するか、「完了」を押します。

**スケジュール済みリフレッシュ間隔は、10 分から 24 時間の範囲内でなければなりません。(EAE017)**

**原因:** 「同期設定」設定パネルで選択した時間間隔が 24 時間 (1440 分) より長い、10 分より短くなっています。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルで有効な値を入力するか、「キャンセル」を押します。

**このカテゴリーには、同期をサポートするアプリケーションはありません。(EAE018)**

**原因:** カテゴリー同期アイコンが押されたか、「同期」->「カテゴリーの同期」メニュー項目が選択されました。選択したカテゴリーには、Everyplace でサポートされるアプリケーションが含まれていません。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。直前のパネルで別のカテゴリー (同期をサポートするアプリケーションが実際に含まれているカテゴリー) を選択するか、同期をサポートするアプリケーションを 1 つ以上、選択したカテゴリーに追加します。

**同期プログラムがインストールされていません。(EAE019)**

**原因:** Everyplace Sync プログラムがハンドヘルド・デバイスにインストールされていないのに、**カテゴリー同期**アイコン (アプリケーション同期アイコンの一つ)、またはメニュー内の同等のオプションが押されました。

Everyplace Sync が誤って削除された可能性があります。



**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。必要に応じて、Everyplace Sync プログラムを再インストールするか、完全再インストールを実行する必要があります。

**IBM Agent プログラムがインストールされていません。(EAE020)**

**原因:** IBM Agent プログラムがハンドヘルド・デバイスにインストールされていないのに、「ソフトウェア更新」パネルで「更新を取得」が押されました。IBM Agent が誤って削除された可能性があります。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。必要に応じて、IBM Agent プログラムを再インストールするか、完全再インストールを実行する必要があります。

**DateBK5 プログラムがインストールされていません。(EAE021)**

**原因:** DateBK5 がハンドヘルド・デバイスにインストールされていないのに、「ネットワーク」設定の「カレンダー」セットアップで DateBK5 が Calendar アプリケーションとして選択されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、Palm Calendar アプリケーションがデフォルトで選択されているパネルに戻ります。

DateBK5 を使用したい場合は、それをハンドヘルド・デバイスにインストールする必要があります。

**VersaMail プログラムがインストールされていません。\\n\\n続行しますか? (EAE022)**

**原因:** VersaMail がインストールされていません。Treo 600 などの一部の Palm デバイスには、メール・プログラムが組み込まれていません。そのため、メール・プログラムがなくても続行する選択肢が用意されています。サポートされるメール・アプリケーションは、必ずしもインストールされている必要はありません。

**ユーザー処置:** 表示された質問パネルで「はい」または「いいえ」を押します。「はい」を押すと、選択されているアクション (続行) が実行されます。「いいえ」を押すと、作業中のパネルに制御が戻ります。

**Mobility Client エラー: n.n - n.n (EAE023)**

n.n は 10 進数を表します。

**原因:** 現在は使用されていません。

**ユーザー処置:** なし。

**Mobility Client プログラムがインストールされていません。(EAE024)**

**原因:** Mobility Client がハンドヘルド・デバイスにインストールされていないのに、「ネットワーク」設定の「Mobility Client」セットアップで Mobility Client を使用することが選択されました。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、デフォルト Mobility Client プロファイルが「なし」に設定されているパネルに戻ります。Mobility Client を使用したい場合は、それをハンドヘルド・デバイスにインストールしてから、構成を試みる必要があります。

選択されているネットワーク・プロファイルのセットアップが完了していません。

**\\n\\n続行しますか? (EAE025)**

**原因:** ユーザー ID、パスワード、または Everyplace サーバーがまだ構成されていないのに、「ネットワーク」設定パネルで「完了」が押されました。



**ユーザー処置:** 表示された質問パネルで「はい」 または「いいえ」を押します。「はい」を押すとデータが保管され、メイン・フォームが表示されます。ただし、「はい」を選択した場合は、プログラムの機能が削減されます。ユーザーは、正しい設定をネットワーク管理者に問い合わせ、Everyplace Access Services を適切に構成する必要があります (「オプション」->「ネットワーク設定」に移動します)。「いいえ」を押すと、作業中のパネルに制御が戻ります。

**少なくとも 1 つのカテゴリが存在しなければなりません。(EAE026)**

**原因:** 「カテゴリ」設定パネルでカテゴリを削除しようとしたが、カテゴリが 1 つしかありませんでした。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルでは 1 つのカテゴリが選択された状態にしておく必要があります。

**少なくとも 1 つのプロファイルが存在しなければなりません。(EAE027)**

**原因:** 「ネットワーク・プロファイル」設定パネルでプロファイルを削除しようとしたが、定義されているプロファイルが 1 つしかありませんでした。

**ユーザー処置:** 表示されたエラー・パネルで「OK」を押し、作業中のパネルに戻ります。このパネルでは 1 つのプロファイルが選択された状態にしておく必要があります。

**選択した VersaMail アカウントが存在しません。ヘルプを表示して詳細を確認してください。(The selected VersaMail account does not exist. View the help for further instructions.)\n\n続行しますか? (EAE028)**

**原因:** 「ネットワーク」設定パネルの「E メール・アカウント」フィールドに入力した VersaMail プロファイル名が存在しません。

**ユーザー処置:** 表示された質問パネルで「はい」 または「いいえ」を押します。「いいえ」を押すと、正しい VersaMail アカウントを入力する必要のあるパネルに制御が戻ります。「はい」を押すと、選択されているアクション (続行) が実行されます。「はい」オプションを選択すると、VersaMail を構成する前に Everyplace Access Services を構成できます。このオプションを選択するのは、次回 VersaMail を構成する際に、このパネルで入力したのと同じアカウント名を使用する場合のみにしてください。

**接続の初期化中にエラーが発生しました。デバイスのソフト・リセットが必要な場合があります。**

**原因:** サーバーへの接続の初期化中に同期が失敗しました。

**ユーザー処置:** 1. ネットワーク接続を確認し、再試行します。 2. デバイスをリセットし、再試行します。

**サーバーへの接続中にエラーが発生しました。サーバー名およびポートを確認してください。**

**原因:** 「サーバー設定」パネルで入力した IP アドレスまたはサーバー名は、存在しないか、現在使用できません。または、このパネルで入力したポート番号フィールドに誤りがあります。

**ユーザー処置:** 1. IP アドレスまたはサーバー名、およびポート番号が「サーバー設定」パネルで正確に入力されているか確認します。エラーがあれば

訂正し、再試行します。 2. SSL 接続を使用している場合は、SSL 証明書 (プロファイル) がデバイスにインストールされているか確認します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、IP アドレスまたはサーバー、およびポート番号が正しく構成されているか、さらにはサーバーが稼働しているかを確認してください。

#### **データの送信中にエラーが発生しました。再試行してください。**

**原因:** デバイスが同期データをサーバーに送信できませんでした。最初に考えられる原因は、ネットワークの問題かサーバーがダウンしていることです。

**ユーザー処置:** 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者とネットワーク・サービス・プロバイダーに連絡してください。

#### **データの送信中にタイムアウトになりました**

**原因:** 「拡張構成サーバー設定 (Advanced Configuration Server Preference)」パネルで設定した同期タイムアウト内に、デバイスが同期データをサーバーに送信できませんでした。ネットワークが低速か (例えば、ネットワークまたはサーバーのタイムアウト)、ユーザーがサービス・エリアの範囲外にいる可能性があります。

**ユーザー処置:** 1. デバイスのタイムアウトを大きくし、ユーザーがサービス・エリアの範囲内にいることを確認して、再試行します。問題が解決しない場合は、サーバーが稼働しているかどうかを管理者に確認してください。 2. タイムアウト値を大きくするようにサーバー管理者に依頼します。 3. サービス・プロバイダーに連絡し、ネットワークの可用性/信頼性に何か問題があれば、それを解決してもらいます。

#### **データの受信中にタイムアウトになりました**

**原因:** 「拡張構成」パネルで設定した同期タイムアウトの期間内に、サーバーからの同期データをデバイスが受信しませんでした。ネットワークが低速であるか、ユーザーがサービス・エリアの範囲外にいる可能性があります。

**ユーザー処置:** 1. デバイスのタイムアウトを大きくし、ユーザーがサービス・エリアの範囲内にいることを確認して、再試行します。問題が解決しない場合は、サーバーが稼働しているかどうかを管理者に確認してください。 2. タイムアウト値を大きくするようにサーバー管理者に依頼します。 3. サービス・プロバイダーに連絡し、ネットワークの可用性と信頼性に何か問題があれば、それを解決してもらいます。

#### **応答の受信に失敗しました**

**原因:** デバイスがサーバーからメッセージを受信しませんでした。ネットワークにエラーがあるか、リソース (ソケット) またはサーバーにエラーがある可能性があります。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

#### **接続を確立できません。ネットワークの設定または状況を確認してから再試行してください。**

**原因:** サーバーへの接続を確立する際に必要なシステム・ネットワーク・ライブラリーを Everyplace Client がロードできませんでした。

**ユーザー処置:** リセットして再試行します。問題が解決しない場合は、デバイスをハード・リセットし、Hot Sync 同期を行い、再試行します (これは、OS に付属している NetLib を再初期化するためです)。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

#### **Net ライブラリーのクローズに失敗しました**

**原因:** これは、内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

#### **データの送信中にサーバーによって切断されました。再試行してください**

**原因:** サーバーとの接続が切断されました。ネットワークにエラーがあるか、サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザー処置:** 1. 再試行します。 2. デバイスをリセットし、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、サーバーが稼働しているかどうかを確認してください。

#### **データの受信中にサーバーによって切断されました。再試行してください**

**原因:** サーバーとの接続が切断されました。ネットワークにエラーがあるか、サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザー処置:** 1. 再試行します。 2. デバイスをリセットし、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、サーバーが稼働しているかどうかを確認してください。

#### **不明なネットワーク・エラー**

**原因:** サーバーとの接続が切断されました。ネットワークの状態が不安定であるか、サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザー処置:** 1. 再試行します。 2. ユーザーがワイヤレス・サービス・エリア内にいることを確認します。 3. デバイスをリセットし、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

#### **サーバーからパッケージを受信しませんでした。**

**原因:** デバイスがサーバーから同期データを受信しませんでした。サービスが一時的にダウンしているか、サーバーからの次のデータ・パケットをデバイスが待機している間にサーバー・エラーが発生した可能性があります。

**ユーザー処置:** 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者とネットワーク・サービス・プロバイダーに連絡します。

#### **メッセージが無効です。メッセージをサーバーに送信しませんでした。**

**原因:** SyncML メッセージ・ヘッダーのサイズが MaxMsgSize より大きい場合、メッセージを正しく作成できませんでした。

**ユーザー処置:** 1. MaxMsgSize を大きくします。現在、ユーザーがこの機能を構成することはできません。コードの変更が必要となります。 2. リセットして再試行します。

#### **セッションが完了前に割り込まれました。設定を確認して再同期してください。**

**原因:** サーバーに送信する SyncML メッセージの構造にエラーがあります。

**ユーザー処置:** リセットして再試行します。

**サーバー認証に失敗しました。ユーザー名とパスワードを確認してください。**

**原因:** 「SyncML サーバー設定 (SyncML Server Preferences)」パネルで入力したユーザー ID とパスワードに誤りがあります。

**ユーザー処置:** 「サーバー設定」パネルで次の事項が正しく状態になっているかどうかを確認します。 a) 「ユーザー ID」フィールドと「パスワード」フィールドがブランクでない。 b) ユーザー ID とパスワードが正しい。 c) ユーザー ID とパスワードの文字が 1 行を超えていない。テキスト・フィールドにテキストが 1 行表示されているが、2 行目以降が隠れて見えない場合は、2 行目以降をスクロールして表示し、削除してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**コマンドをビルドするパラメーターが無効です。**

**原因:** これは、内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**クライアントがサイズ制限を超えたレコードを送信できません。**

**原因:** 生成された SyncML メッセージのサイズが MaxMsgSize を超えているか、1 つのコマンドが MaxMsgSize を超えていたためにメッセージを正しく作成できませんでした。このエラーは、2 回目の試行が失敗した後に表示されます。

**ユーザー処置:** MaxMsgSize を大きくします。現在、ユーザーがこれを構成するには、コードを変更する必要があります。2. リセットして再試行します。

**SyncML ヘッダーのパラメーターが無効です。**

**原因:** これは、内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**SyncML ヘッダーが最大メッセージ・サイズを超えています。セッションを開始できません。**

**原因:** これは、内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**アラート 222 コマンドを送信できません。**

**原因:** これは、222 メッセージを作成するときに発生する内部エラーです (222 メッセージは、サーバーにさらにデータを要求します)。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**アラート 222 コマンドをサーバーから受信しませんでした。**

**原因:** 予期される 222 アラート・メッセージをサーバーが送信しませんでした (222 アラート・メッセージは、さらにデータを要求します)。

**ユーザー処置:** 1. デバイスをリセットし、再試行します。 2. システム管理者に連絡し、サーバー・ログを確認します。

**Map コマンドを送信できません。**

**原因:** これは、Map コマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**Alert コマンドを送信できません。**

**原因:** これは、Alert コマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**Put コマンドを送信できません。**

**原因:** これは、Put コマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**Sync コマンドを送信できません。**

**原因:** これは、Sync タグとそれに関連するコマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**Delete コマンドを送信できません。UID:**

**原因:** これは、Delete コマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**Add コマンドを送信できません。UID:**

**原因:** これは、Add または Move コマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**Update コマンドを送信できません。UID:**

**原因:** これは、Replace コマンドを作成してサーバーに送信する際に発生する内部エラーです。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**同期シーケンスを終了できません。**

**原因:** これは、同期が正常に完了しなかったことを示します。現在、これはデバッグ時にのみ表示されるメッセージとなっており、リリース・ビルドでは表示されません。

**ユーザー処置:** デバイスをリセットし、再試行します。

**ユーザーによってセッションがキャンセルされました。**

**原因:** PIM 項目（メールや予定表など）を 1 つ以上同期している最中に、ユーザーが「同期中」パネルの「同期停止」ボタンを押しました。

**ユーザー処置:** 同期を再開します。

**サーバーは使用中です。後で同期を再試行してください。**

**原因:** このメッセージは、サーバーにログオンしているユーザーが多すぎる場合、またはサーバーが同期しているユーザー・データが多すぎる場合に表示されることがあります。

**ユーザー処置:** 後で再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**SyncML エラー・コードをサーバーから受信しました。セッションが終了しました。**

**原因:** これは、サーバー・エラーです。



**ユーザー処置:** システム管理者に連絡してください。

サーバーからの状況コマンドが欠落しているかエラーがあります。

**原因:** これは、サーバー・エラーです。

**ユーザー処置:** システム管理者に連絡してください。

クライアントがサーバーとの低速同期の開始を要求しました。

**原因:** サーバーと完全に同期するように、サーバーがクライアントに要求しました。

**ユーザー処置:** なし。

同期プロトコル・エラーです。

**原因:** 同期の進行中にサーバーがダウンしたか、サーバー・エラーが発生しました。

**ユーザー処置:** 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、サーバーが稼働しているかどうか、およびサーバーに内部エラーがないかどうかを確認します。

同期プロトコル・エラーです。システム管理者に連絡してください。

**原因:** 同期の進行中にサーバーがダウンしたか、サーバー・エラーが発生しました。

**ユーザー処置:** 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、サーバーが稼働しているかどうか、およびサーバーに内部エラーがないかどうかを確認します。

デバイス・メモリーがいっぱいであるため、データを保管できません。フリー・スペースを確認して再試行してください。

**原因:** サーバーからデータを受信するデバイスにメモリーが十分にありません。

**ユーザー処置:** メッセージのサイズを縮小するか、いくつかの PIM データをデバイスから消去します。必要な最小メモリーについては、リリース資料を参照してください。

サーバーでエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。

**原因:** 同期の進行中にサーバーがダウンしたか、サーバー・エラーが発生しました。

**ユーザー処置:** 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、サーバーが稼働しているかどうか、およびサーバーに内部エラーがないかどうかを確認します。

ネットワークの初期化中にタイムアウトが発生しました。ネットワーク接続とタイムアウト間隔を確認してから再試行してください。

**原因:** 「拡張設定」パネルで指定されたタイムアウト内にソケット接続を開けませんでした。

**ユーザー処置:** 再試行します。

サーバーへの接続中にタイムアウトが発生しました。ネットワーク接続とタイムアウト間隔を確認してから再試行してください。

**原因:** 「拡張設定」パネルで指定されたタイムアウト内に、デバイスがサーバーに接続できませんでした。

**ユーザー処置:** 1. ネットワークがダウンしているか、ネットワークの速度が遅すぎます。 2. 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**データの送信中にタイムアウトが発生しました。ネットワーク接続とタイムアウト間隔を確認してから再試行してください。**

**原因:** 「拡張構成サーバー設定 (Advanced Configuration Server Preference)」パネルで指定されたタイムアウト内に、デバイスがサーバーにデータを送信できませんでした。

**ユーザー処置:** 1. ネットワークがダウンしているか、ネットワークの速度が遅すぎます。 2. 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**データの受信中にタイムアウトが発生しました。ネットワーク接続とタイムアウト間隔を確認してから再試行してください。**

**原因:** 「拡張構成サーバー設定 (Advanced Configuration Server Preference)」パネルで指定されたタイムアウト内に、デバイスがサーバーのデータを受信できませんでした。

**ユーザー処置:** 1. ネットワークがダウンしているか、ネットワークの速度が遅すぎます。 2. 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**データの受信中にメモリー不足になりました。ソフト・リセットの後に再試行してください。**

**原因:** サーバーからデータを受信するデバイスにメモリーが十分にありません。

**ユーザー処置:** 1. リセットして再試行します。2. いくつかの PIM データをデバイスから消去します。必要な最小メモリーについては、リリース資料を参照してください。

**クライアント要求を解釈できなかったか、または時間が足りませんでした。再試行してください。**

**原因:** HTTP 500 エラー・コード - 一般的なネットワーク・エラー・コード。このエラーは、サーバー (特に Everyplace Synchronization Service 管理サーバー) が全く稼働していない場合に最も多く発生します。

**ユーザー処置:** システム管理者に連絡し、サーバーが稼働しているかどうかを確認して、再試行します。それでも問題が解決しない場合は、デバイスをリセットして、再試行します。

**サーバーがビジーであるか、または切断されています。後で再試行してください。**

**原因:** サーバーが同時要求をこれ以上処理できなかったか、サーバーがネットワークに接続されていませんでした。

**ユーザー処置:** 再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**指定した PIM サブレットを検出できません。サーバー構成を確認してから再試行してください。**

**原因:** 「拡張構成サーバー設定 (Advanced Configuration Server Preference)」パネルの「PIM サブレット」フィールドに誤りがあります。

**ユーザー処置:** デフォルトの PIM サブレットが変更されていないか確認します。変更されている場合は、それが正しいか確認します。訂正を行い、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、入力したフィールドが正しいかどうかと、そのフィールドがサーバー上に存在するかどうかを確認します。

発信データの準備中にメモリー割り振りエラーが発生しました。レコードは送信されません。フリー・スペースを確認してから再試行してください。問題が解決しない場合は、デバイスのソフト・リセットが必要になることがあります。

**原因:** デバイスのメモリーが不足しているため、同期データを生成してサーバーに送信することができません。

**ユーザー処置:** メッセージのサイズを縮小するか、いくつかの PIM データをデバイスから消去します。必要な最小メモリーについては、リリース資料を参照してください。

**無効な VersaMail アカウントが指定されました。**

**原因:** VersaMail がインストールされているデバイスで VersaMail が初期化されていません (例: Tungsten C、オペレーティング・システム 5.2)。

**ユーザー処置:** 次のことを実行します。1. **VersaMail** アイコンを押し、アカウント名とその他の詳細を設定します。2. WebSphere Everyplace Access の「同期」パネルから「ネットワーク設定」を選択します。3. 「メールの構成」を選択し、「アカウント名」フィールドに「VersaMail」を設定します。4. 設定を保管します。5. 再試行します。

**VersaMail ライブラリーが見つかりません。**

**原因:** VersaMail ライブラリー・エラーです。

**ユーザー処置:** なし。

**無効な VersaMail ライブラリーが見つかりました。**

**原因:** VersaMail ライブラリー・エラーです。

**ユーザー処置:** なし。

**VersaMail ライブラリー・エラーです。**

**原因:** VMDbLib.prc がインストールされていないか、破壊されています。

**ユーザー処置:** 1. WebSphere Everyplace Access Client インストールから VMDbLib.lib をインストールまたは再インストールします。2. デバイスをリセットし、再試行します。

サーバー名の解決に失敗しました。ネットワーク接続とサーバー名を確認してから再試行してください。

**原因:** 「ネットワーク設定」パネルで構成した同期サーバーのサーバー名または IP アドレスに誤りがあるか、存在しません。

**ユーザー処置:** IP アドレスまたはサーバー名を訂正し、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、上記の IP アドレスまたはサーバー名が存在するかどうかを確認します。



無効なアプリケーション設定が検出されました。サーバー設定またはネットワーク設定を確認する必要がある場合があります。

**原因:** 「サーバー設定」パネルの「名前」フィールドに複数のエントリーがあるか、「拡張構成」パネルの「PIM サブレット」フィールドがブランクです。

**ユーザー処置:** 1. 「名前」フィールドをスペースも含めて完全に消去します。名前を再入力し、再試行します。 2. 「PIM サブレット」フィールドに正しい名前を設定します。

サーバー名の解決中にタイムアウトが発生しました。ネットワーク接続とタイムアウト間隔を確認してから再試行してください。

**原因:** 「サーバー設定」パネルの「サーバー名」フィールドに、IP アドレスではなくサーバー名が設定されています。この原因としては、ネーム・サーバーの実行速度が遅すぎるか、ネーム・サーバーがダウンしていることが考えられます。そのため、タイムアウト期間内に IP アドレスを解決できませんでした。

**ユーザー処置:** サーバー名ではなく、IP アドレスを使用して再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

クライアント要求を解釈できませんでした。サーバー設定を確認する必要がある場合があります。

**原因:** 「拡張構成」パネルの「PIM サブレット」フィールドに誤りがあります。例えば、このエラーが発生するのは、このフィールドに「/ess/SyncML」ではなく「SyncML」が設定されている場合です。

**ユーザー処置:** システム管理者に連絡し、このフィールドを訂正します。

初期同期には長時間かかる可能性があります。この同期には、使用可能な最速の接続を使用することを推奨します。デバイス上のデータをサーバー上のデータとマージしたり、デバイス側のすべてのデータをサーバー上のコピーで置換することができます。

**原因:** 現在、デバイス上にユーザー・データがないか、これが最初の同期です。

**ユーザー処置:** なし。

**VersaMail** がインストールされていません。**VersaMail** をインストールする必要があります。

**原因:** WebSphere Everyplace Access は、Tungsten W や Tungsten C などのデバイス上で VersaMail メールをサポートしますが、このデバイスには VersaMail がインストールされていません。

**ユーザー処置:** デバイスに VersaMail がインストールされているか確認します。次に「ネットワーク設定」パネルでメールを構成し、再試行します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

*string* レコード '*string*' 内のフィールドのデータが多すぎるため、データを保管できません。フィールドを確認して、再試行してください。

*string* は、ストリング値を表します。

**原因:** 受信した PIM 項目 (メール、アドレス帳、予定表、メモ、To do) のフィールドのうち、1 つ以上のフィールド・サイズが、現在 WebSphere Everyplace Access でサポートされるサイズより大きくなっています。

**ユーザー処置:** エラーに示されたフィールドのサイズをサポートされるサイズに変更して、再試行します。

メモリー割り振りエラーが発生しました。フリー・スペースを確認してから再試行してください。問題が解決しない場合は、デバイスのソフト・リセットが必要になることがあります。

**原因:** デバイスのメモリーが不足しているため、同期データを生成してサーバーに送信することができません。

**ユーザー処置:** メッセージのサイズを縮小するか、デバイスをリセットして、再試行します。必要な最小メモリーについては、リリース資料を参照してください。

サーバーからの着信メールに **10** を超える添付ファイルが添付されています。一部の添付ファイルが除去されました。

**原因:** 添付ファイルの数は、そのサイズに関わらず、最大 10 個に制限されています (ただし、合計サイズの制限はあります)。

**ユーザー処置:** 余分な添付ファイルを除去し、添付ファイルの数を最大でも 10 個以下にします。

**SSL 認証がありません。**

**原因:** SSL 接続用の PBSPkcs11 ライブラリーをロードできませんでした。これは、WebSphere Everyplace Access パッケージの一部です。

**ユーザー処置:** PKCS prc がインストールされていることを確認します。必要な場合は、システム管理者に連絡し、このライブラリーをロードします。

**SSL ログインの確立に失敗しました。**

**原因:** SSL 接続用の PBSPkcs11 ライブラリーを初期化できませんでした。

**ユーザー処置:** PKCS prc がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、システム管理者に連絡します。

**以下の PIM データベースがまだ初期化されていません: メール**

**原因:** このメッセージは、次の状況で表示される場合があります。 a) VersaMail がデバイスにインストールされている。 b) 「メールの構成」パネルの「アカウント名」がブランクである。

**ユーザー処置:** 1. VersaMail アプリケーションを開いて閉じます。 2. 「メールの構成」パネルの「アカウント名」に「VersaMail」を設定します (デフォルトが使用されていない場合は、ユーザーが VersaMail 内に作成したアカウントを設定します)。

---

## Mobility Client のエラー・メッセージ

以下に示す Mobility Client のメッセージ、原因、およびユーザー処置 (ある場合) を参照してください。

接続に失敗しました。 **Mobility Client** のセットアップが矛盾しているか、完全ではありません。テクニカル・サポートに連絡してください。 (ECE101)

**原因:** これは重大なエラーであり、インストールに問題があることを示しています。 Mobility Client が全く、または一部しかインストールされていないか、別のバージョンのプログラムに対応する PRC が混在しています。

**ユーザー処置:** 「OK」をクリックして Mobility Client を再インストールするか、 WebSphere Everyplace Connection Manager 管理者に連絡し、詳細なトラブルシューティング情報を入手します。

接続に失敗しました。サーバーと **Mobility Client** の構成に互換性がありません。  
テクニカル・サポートに連絡してください。(ECE102)

**原因:** Mobility Client の構成と WebSphere Everyplace Connection Manager サーバーの構成が一致しません。

**ユーザー処置:** 「OK」をクリックします。または、(「ログを表示」をクリックして) ログ内で詳細な情報を検索し、不一致がある場所を識別したら、その情報を WebSphere Everyplace Connection Manager 管理者に連絡します。例えば、サーバーで必要な暗号化が、クライアントで「オフ」に設定されている場合があります。

現時点では接続を確立できません。設定を確認しますか? (ECE103)

**原因:** WebSphere Everyplace Connection Manager サーバーの IP が欠落しているか、サーバーへの接続時にエラーが発生しました (例: 接続のタイムアウト)。

**ユーザー処置:** 表示された質問パネルで「はい」、「いいえ」、または「再試行」を押します。IP アドレスが欠落していないことを確認したら(「OK」をクリックし)、WebSphere Everyplace Connection Manager 管理者に連絡して、詳細なトラブルシューティング情報を入手します。

選択したプロファイルが無効または存在しないため、接続に失敗しました。プロファイルを切り替えますか? (ECE104)

**原因:** WebSphere Everyplace Connection Manager プロファイルが存在しないか、存在していても、現在のインストールと整合していません (例えば、暗号化がオンでも、暗号化 PRC がインストールされていない)。

**ユーザー処置:** 表示された質問パネルで「はい」または「いいえ」を押します。ユーザーは、WebSphere Everyplace Connection Manager 管理者に連絡するか、Mobility Client ユーザー・インターフェースを使用して問題を解決する必要があります。

接続に失敗しました。**Mobility Client** を開始できませんでした。テクニカル・サポートに連絡してください。(ECE105)

**原因:** 接続の確立を試みているときに、Mobility Client が不明なエラーを戻しました。

**ユーザー処置:** (「ログを表示」をクリックして) ログ内で詳細な情報を検索し、それを WebSphere Everyplace Connection Manager 管理者に連絡します。WebSphere Everyplace Services のポップアップ・メッセージが表示され、追加情報が提供される場合もあります。



---

## 付録 D. 著作権および商標

著作権

商標

---

### 著作権

© Copyright IBM Corporation 1994, 2004. All rights reserved. (C) Copyright IBM Japan 2004. IBM Web サイトは別の所有権および著作権表示が付されている場合がありますが、その場合には、これにしがっていただきます。

---

### 商標

IBM、DB2、Everyplace、Lotus、Lotus Domino、Passport Advantage、WebSphere は、IBM Corporation の商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。